

宍粟市の人口動態等にかかる意見・提案等に対する回答書
【書面（第10回委員会後）】

基本構想 人口ビジョン

No.	委員名	人口ビジョンに対する意見・提案等	意見・提案等に対する回答・計画への反映等
1	東委員	総合計画が総花的で見えにくいように思うため、特に人口問題は総合対策が必要と思うが、あえて力点を絞ってアピール力のあるものが必要ではないか。	ご指摘のとおり、総合計画は各分野の方向性を定めていくものとなっており、総花的で具体的な取組が見えづらいものとなりがちで、県内はもちろん全国の市町村において、人口減少対策として、子育て支援や定住施策の競争となっています。宍粟市としても、子育て、教育、医療、福祉、観光などあらゆる分野において、人口減少対策を打ち出す必要があることが現状となっています。そういった中で、【住む】【働く】【産み育てる】【まちの魅力】を定住促進重点戦略として施策横断的に取り組むとともに、「森林から創まる地域創生」をテーマに、特に森林や木を生かした施策を「木育」としてつながりをもたせ、市内外にPRしていきたいと考えております。
2	東委員	人口減少のデメリットを開示のうえ、譲れない線があるのであれば、それに向けて全力投球していけばよいのではないかと。仮に3万人を下回るとどのような行政上の不都合が予想されるのか。	どの程度の人口規模でどのような影響があるかという基準はありませんが、全国的には、人口減少が進んだ場合のデメリットについて、次のようなことが想定されています。 <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーなど生活に必要な買い物をする店舗が失われること ・公共交通の維持が困難になること ・水道や下水道などを維持するための公共料金負担が重くなること ・介護、国民健康保険など社会保障費の負担が重くなること ・地域経済規模が縮小し、さらに事業所や雇用の減少を招くこと ・空き家が増加し、防災や防犯に影響すること ・地域活動の担い手が減少し、地域コミュニティ活動が低下すること ・農地や森林の荒廃が進むこと ・子どもの数が減少し、さらなる学校園規模の見直しが必要となること ・行政サービスの維持が困難となり、市民生活に影響すること
3	山田副委員長	「将来の宍粟市に希望もてる目標」とする必要があることは理解できるが、立案側の自己満足に終わってしまうことがある。人口ビジョンは全施策の基本となるべきもので、理想論より現実を反映したシビアな仮定に基づいたビジョンとするべきと考える。根拠のある仮説がなく、設定によりどんな推計にでもなってしまう。楽観的な仮説より悲観的な仮説である1.7万人の方が現実を反映した姿ではないか。悲観的仮説における宍粟市の姿を提示し、それを出発点として議論を進めた方が「ビジョンは理想（あくまでも目標）で現実が現実」といった空虚な結果にならず、住民にとっても行政にとっても、特に住民にとって切実な問題としての理解が深まり、実効性のある対応が図られるのではないかと。	ご指摘のとおり、現実をシビアに反映した数値の方が、市民にも切実な課題としての理解が深まり、実効性がある対応につながるものと考えております。この6年間の地域創生総合戦略に基づく取組により、令和2年国勢調査の結果は、国立社会保障人口問題研究所の推計よりも若干ではあるものの改善された数値となっております。よって、国立社会保障人口問題研究所の推計をベースにしつつも、これまでの市の取組結果や、今後の取組も踏まえ、一定程度の目標は加味しつつ、人口目標の設定をしたいと考えています。
4	久野委員	市民が将来に希望もてる人口目標であることが一番の前提と考える。また、長期的な目標であるため、一定の高い目標を掲げ、様々な施策の効果を見ながら、目標・施策とも、可能な範囲で必要に応じ見直しをかけていくことが望ましい。国や県の目標に変化がなく、変更しづらい面はあるが、現行の目標は現実味が薄いと思われ、相当ハードルは高いが、2060年に26,550人あるいは23,000人としてはどうか。	
5	山國委員	県の平成27年国調を基にした人口目標が450万人で、その比率から見ると3万人の目標は妥当。ただ、合計特殊出生率の急激な上昇や、急な会社・工場の誘致は見込みにくいと思われる。特に工業団地等では、今まであまりトップ（行政）の方々が努力をしていない。かなり他の市・町よりハンデがあると思う。企業家の気持ちで目標達成のために取り組まれない。	
6	西川委員	人口減少について現状や将来の予測をありのままに受け入れた中で目標を設定する必要がある。市民が自分の子・孫に高校・大学卒業後、宍粟市に残って地元で就職してほしいと希望されている方は多くないと思う。その考えは、子どもたちに伝わり、現実として20歳前後の人口は毎年減少している。また、新卒で市内就職を希望しても就職先を確保することが困難な状況もある。ただし、人口が減少する中でも心の持ち方・考え次第でより良いより豊かな地域社会を創ることは可能であると思う。日々の仕事・行動を通して地域社会に対して小さな貢献をする意思を持ち、それを継続することによって、子どもたちが大人になった後、地域に貢献しようという意思を継いでくれる可能性がある。人口の減少を止めることは困難であると思うが、より良い地域社会を創ろうとする一人一人の意思・行動が、人口減少の割合を減少させ、また、より良い地域社会を創ることによって、他の地域から人が集まってくる要因になると思う。よって、人口減少の現実を受け入れた中で、より良い地域社会を創るにはいかにすべきかということに考えの重点を置くべきだと思う。	ご指摘のとおり、人口が減少する中でも、より良い地域社会を創ろうとする一人ひとりの意思・行動があることで、結果的には人口減少の速度を緩めていくものと考えます。人口が減少することによるデメリットをどのように克服していけるかが重要であり、その大きな方向性を後期基本計画及び地域創生総合戦略において示していかなければならないと考えています。人口減少に対応した地域構造、高齢化が進む中での支えあいやまちづくりに主体的に参加する機会の創出など、市民が地域に関わる仕組みや環境づくりとともに、特に宍粟を故郷とする郷土愛を醸成する取組として、木育の視点を取り入れ、子どもたちからまちへの愛着を育む活動を進めます。